

(日置郡伊集院町下谷口字下永迫)

### 位置と環境

遺跡は町の中心部から南に約2km離れた、恋之原台地から延びた支脈が伊集院の盆地状の水田地帯に落ちる直前の標高約150m程の小台地上に立地している。台地は南北に長く、西にやや狭い尾根が延びており、その尾根に沿って西回り道路が走ることになる。

### 調査の経緯

平成3年(1991年)に、南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に伴う分布調査で発見され、平成8年に県教育委員会が調査主体となり確認調査、引き続いて本調査に移行した。平成10年までの足掛け3年にわたり調査を実施した。調査の対象は14,000m<sup>2</sup>であった。

### 遺構と遺物

調査の結果、旧石器時代から縄文時代早期・前期、古墳時代、平安時代、それに中世から近世にわたる各時代の遺構や遺物が確認されている。

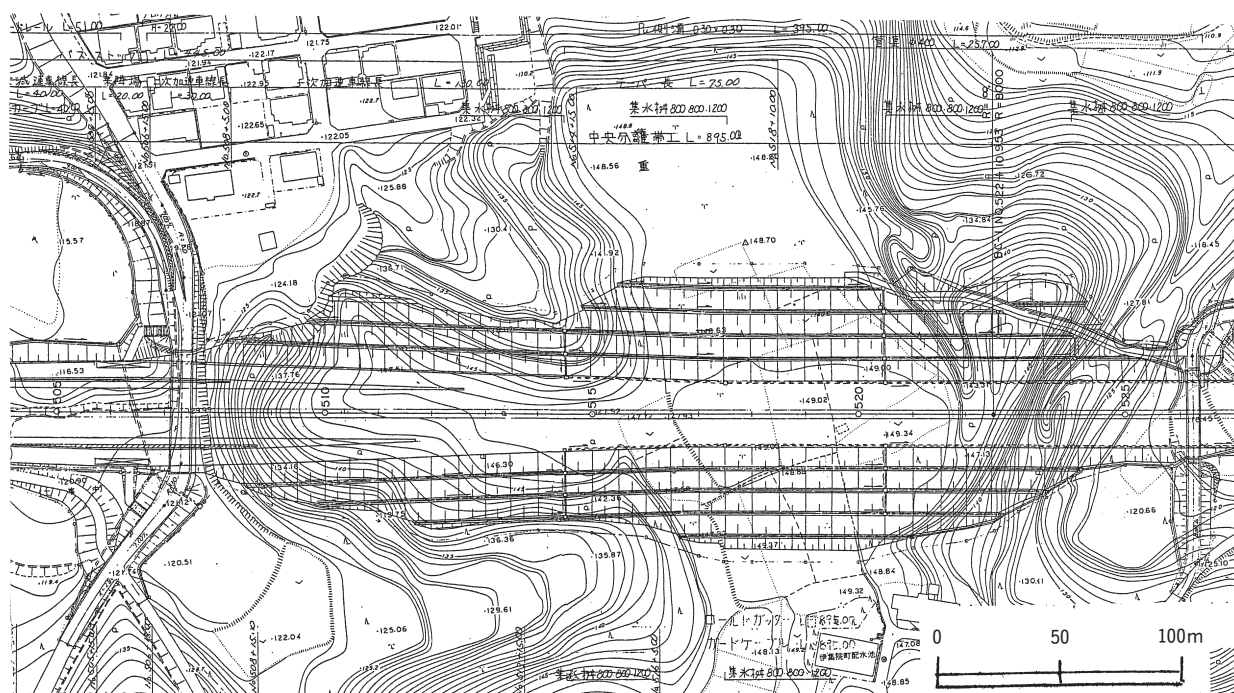
旧石器時代は、ナイフ形石器文化期の礫群1基のほか2か所のブロックも確認された。細石刃文化期



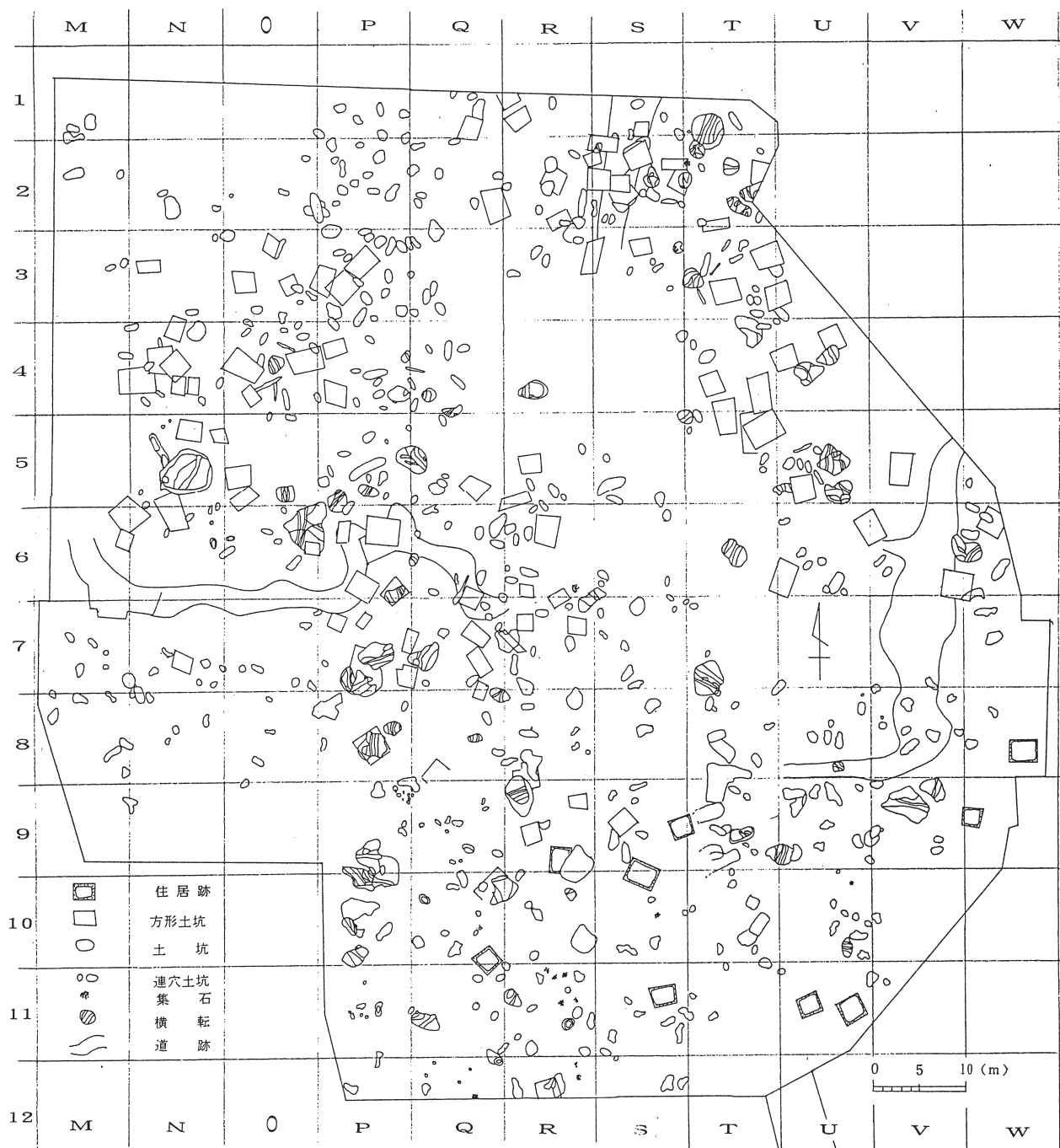
第1図 永迫平遺跡の位置

の細石刃も出土した。

縄文時代は、本遺跡の主体をなす早期前半の各種遺構が検出されている。土器や石器なども割合に多く出土している。詳細は後述する。前期の曽畑式土器と石器が少量出土した。古墳時代には、在地的な性格の極めて強い成川式土器が出土した。平安時代には、多量の焼土や土坑等とともに土師器や須恵器が出土している。中世では、ほぼ東西に走る溝状遺構が発見され、その中に14世紀頃と思われる青磁が少量出土していることから、室町時代の遺構と考えられるほか、鉄滓も確認されている。近世では陶器・磁器が出土したほか、時代不詳の道跡も7本検



第2図 周辺地形図



第3図 中心部分遺構位置図

出されている。

本遺跡の主体をなす縄文時代早期前葉，前平式期の遺構について，その概要を説明する。

竪穴住居跡は9軒確認した。9号住居跡のみ土層の横転によって破壊されているために全容は不明であるが，それも含めてすべて方形である。正方形に近いプランを持つものから，長方形，台形状を呈するもの，角を若干丸めるものや，一辺の中ほどを更に小さく広げるものなどと，バリエーションが豊富である。いずれも竪穴の内部には柱穴を持たず，外周に作られたと考えられる。本来は，出入口以外に多くの柱穴があったと考えられるが，9号住居跡の例からも土層の横転によってその所在が分からなくなったものもあると思われる。

そのほか，集石12基，連穴土坑3基，土坑392基に加えて，形状や規模が竪穴住居跡に似るものの，住居跡とは性格の異なる方形土坑も95基確認され，道跡も3本見つかった。

#### 特徴

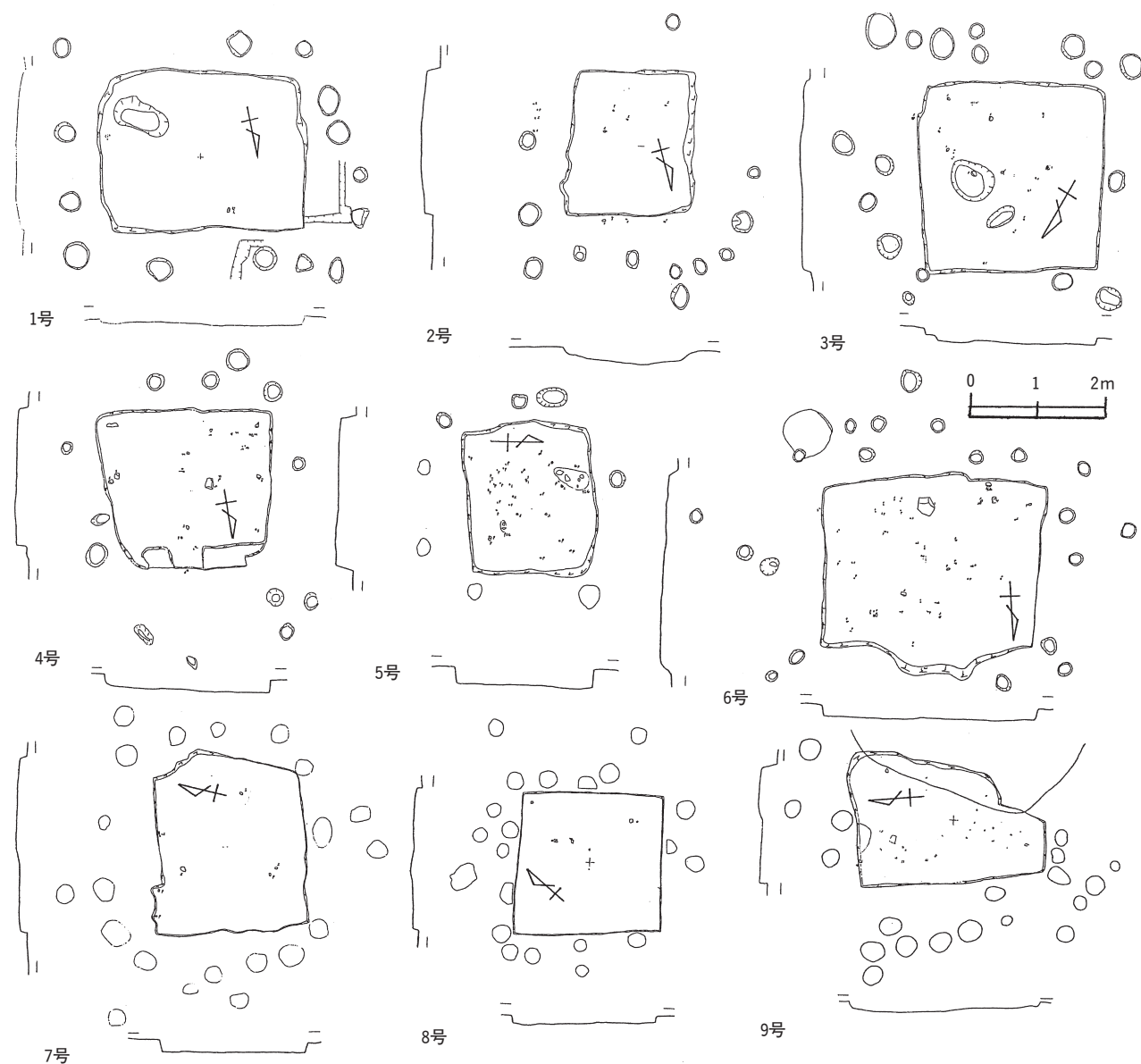
縄文時代早期前葉の集落跡である。

#### 資料の所在

出土遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

#### 参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2005「永迫平遺跡」  
『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』  
93 (繁昌正幸)



第4図 縄文時代早期前葉の住居跡